『モバイルディスプレイの将来展望』　レポート販売開始
～モバイルディスプレイの発展方向と技術トレンド編～

==========
『モバイルディスプレイの将来展望』　レポート販売開始

～ モバイルディスプレイの発展方向と技術トレンド編 ～

≫ 『モバイルディスプレイの将来展望』　資料詳細・販売ページ
http://planidea.jp/cc/psrl20110908
==========

マーケティング・リサーチ＆コンサルティングサービスを提供するPLANiDEA LLC.
（プラニディア合同会社）　は、株式会社 ROA Holdingsによる調査レポート
『モバイルディスプレイの将来展望』　の販売を開始しました。

≫ 『モバイルディスプレイの将来展望』
http://planidea.jp/cc/psrl20110908

【資料概要】

2010年に発売台数が30億台、売上ベースで240億ドル、金額ベースではノートPC市場に勝り、年平均5%水準の継続的な成長が予想されるモバイルディスプレイ市場に特化した深層情報と分析！

スマートフォンが世界のモバイルフォン業界を震撼させ、ユーザーの利用パターンに革命を起こし始めている。

この結果、携帯電話メーカーの立場から見て最も重要なハードウエアが
「モバイルディスプレイ」　になりつつあり、アップル　（Apple）、サムスン　（Samsung）
を中心にモバイルディスプレイに対する大々的な投資を行っている。関連プレイヤーは、今後どんなサイズや技術がモバイルディスプレイの標準になるかに敏感になっている状況だ。

本レポート
『モバイルディスプレイの将来展望［モバイルディスプレイの発展方向と技術トレンド編］』
では、こうしたモバイルフォン市場の流れから、今後5年間で最も重要な役割を果たすのは
「モバイルディスプレイ」
だと判断し、これまでのモバイルディスプレイの発展過程と今後の開発方向を分析すると共に、新たに登場するであろう新技術に関する可能性とその価値について考察している。

【『モバイルディスプレイの将来展望』　のポイント】

■ スマートフォン市場拡大で差別化要素に重要なディスプレイ市場を分析！
■ モバイルディスプレイの概要/特徴/成長過程/業界の現況を分析！

■ モバイルディスプレイ技術のトレンドと開発・進化の方向性を解説！
■ 市場需要とディスプレイ企業の供給能力を分析、対応戦略を展望！
■ モバイルディスプレイの出荷量・比率/売上比率の展望も！
■ LCDの代替テクノロジー/新技術の可能性や業界構図の変化にも言及！
■ 重要ポイントを豊富な図表でわかりやすく解説！

※ 本サイトにて、図表サンプルの一部を公開しております。

【『モバイルディスプレイの将来展望』 レポートサマリー】

今や、スマートフォンが世界のモバイルフォン業界を震撼させ、ユーザーの利用パターンに革命を起こし始めている。

これまでのモバイルフォンの強者、ノキアがスマートフォンへの対応が遅れたことでサムスン、HTC、アップルが急速に市場を占有し、新たなモバイルフォン業界図を作っている。ユーザーはVoiceより、広くなったディスプレイを中心にしてSNS、インターネットアプリケーションなどを積極的に使い始め、データトラフィックが爆発的に増加している。

このようにユーザーの利用パターンが変わり始めた結果、モバイルフォンメーカーの立場から見て最も重要なハードウエアが「モバイルディスプレイ」になりつつあり、アップル、サムスンを中心にモバイルディスプレイに対する大々的な投資を行っている。関連プレイヤーは、今後どんなサイズや技術がモバイルディスプレイの標準になるかに敏感になっている。

ROA
Holdingsは、こうしたモバイルフォン市場の流れから、今後5年間で最も重要な役割を果たすのは「モバイルディスプレイ」
だと判断し、2011年から毎年モバイルディスプレイに特化した深層情報と分析を基にした
「モバイルディスプレイの将来展望」 と題する調査報告書を発行することとした。

「モバイルディスプレイの将来展望」
は、技術の予測と市場展望を2編のレポート構成にして分析する。まず、このレポートによって、これまでモバイルディスプレイの発展過程と今後の開発方向を分析し、新たに登場するであろう新技術に関する可能性とその価値について展望してみたいと思う。また、もう1編のレポートでは市場需要とディスプレイ企業の供給能力を分析し、今後のディスプレイ企業の対応戦略について見つめてみたい。

技術発展の展望は、個別の要素となる技術の定量的予測だけでなく、新技術の可能性と価値に対する定性的な分析を同時に進め、新技術の効果に重点を置くこととする。

ROA
Holdingsはまず、これから論じようとするモバイルディスプレイについて、環境的、技術的、事業的な特性を分析し、モバイル環境に使われる10インチ以下のカスタマイズド・ディスプレイと定義した。

モバイルディスプレイは、2010年に発売台数が30億台、売上ベースで240億ドル、金額ベースではノートPC市場に勝っている。また、年平均5%水準の継続的な成長が予想され、最近のタブレットの登場とともにモバイルディスプレイとITの間の境界線がはっきりしなくなりつつある。

モバイルディスプレイは、ITと他の技術的特徴を持ち合わせて発展してきたため、他のアプリケーションに比べその変化が早かった。初期、日本企業が技術的に市場を支配していた構図から、物量と価格の力で台湾企業の進出ラッシュを引き起こした時期があり、その後アップルを始めとしたセットアップ企業が技術と投資で先導している最近までの10年間、急激な変化を経験してきた。

モバイルディスプレイの役割と重要性はますます増えているが、技術的な差別化が弱まって、価格は2008年まで下落し続けてきた。しかし最近、スマートフォン市場の拡大と共にディスプレイが再び重要な差別化要素として注目されている。

モバイルディスプレイ技術は、高解像度と大面積化が急速に進んで、低消費力と高輝度を実現するための技術が開発されてきた。また、新技術の3D、フレキシブルディスプレイなどへの積極的な開発が進んでいる。

AMOLEDは性能が優秀なだけでなく、フレキシブルディスプレイを具現化する核心技術として評価されており、LCDの代替となるメインストリーム技術になると予想される。AMOLED以外のアメージングテクノロジーとしては、EPO、量子ドット、MESなど、さまざまな技術が開発されており、その強みを活かすことのできる新たなアプリケーションなども新市場を形成しつつある。

各アプリケーションは、市場の特性によってそれぞれ違う方向への発展が予想される。

1. モバイルフォン
- フルタッチフォンの増加でサブディスプレイ市場が減少
- スマートフォンは3.5インチ以上の大画面と250ppi高解像度ディスプレイへの採用拡大
- スマートフォンは技術力を持つ企業のみが供給可能

2. デジタルイメージング
- DSCだけの標準技術から脱皮したモバイルフォン規格を共有
- DSC用は、スマートフォンと競争するために大面積、高解像度へ比率が増している
- DPFとフォトプリンター価格の下落は継続

3. ポータブル メディアプレイヤー
- iPodがPMP市場をハイエンドに転換
- iPodの市場展望によってPMP市場の展望が連動

4. 車両用
- アフターマーケット → ビフォアマーケット → アフターマーケット
- 純正品向けの製品は既存の企業の影響力が強いままの見込み
- PND市場は飽和状態となり価格は下落する

5. アミューズメント
- セットアップ企業2社とディスプレイ企業2社の閉鎖的な市場
- 新技術の適用に積極的

モバイルディスプレイは現在のメインストリーム技術であるLCDが限界に達すると見られ、新技術に対する要求が高まっている。また、ディスプレイ企業を中心として開発が進んでいる構図が変化してセット企業が直接関与したり、開発を主導したりする構図に変わると予想される。これによってセットアップ企業が望む技術をより積極的に採用し、ディスプレイと最終消費者の間の技

術的な隔たりが狭まると見られる。

【『モバイルディスプレイの将来展望』 レポート目次】

エグゼクティブサマリー

1. モバイルディスプレイの概要

1-1. フラットパネルディスプレイの展望

1-1-1. フラットパネルディスプレイの種類
1-1-2. フラットパネルディスプレイ事業部門
1-1-3. フラットパネルディスプレイの技術要素

1-2. モバイルディスプレイの定義と特徴

1-2-1. モバイル環境 ： 小さくても強い製品が必要なタフな環境
1-2-2. 技術的特徴 ： モバイルにのみ特化した最高水準の技術
1-2-3. 事業的特性 ： カスタマイズされた製品で勝負する受注ビジネス

1-3. モバイルディスプレイの成長過程

1-3-1. モバイルディスプレイの始まり （～2000年）
1-3-2. 日本企業の進出 （～2003年）
1-3-3. LTPSの急成長 （～2006年）
1-3-4. 台湾の参入と業界再編 （～2009年）
1-3-5. アップルの直接投資 （～2011年）

1-4. モバイルディスプレイの現況

1-4-1. 業界現況
1-4-2. アプリケーションの種類

2. モバイルディスプレイ技術のトレンド

2-1. モバイルディスプレイの役割と重要性

2-2. モバイルディスプレイ進化の方向

2-2-1. 高解像度 ： 解像度は300ppiから収れん、画質の改善は継続
2-2-2. 大画面ディスプレイ ： デッドスペースを減らして初めて5インチが可能に
2-2-3. 新たな機能と価値

2-3. ディスプレイ企業の開発トレンド

2-3-1. 高解像度に対応する技術
2-3-2. 大面積 対応技術

2-3-3. 原価削減技術

2-4. エマージングテクノロジー

2-4-1. AMOLED
2-4-2. エレクトリックペーパーディスプレイ (EPD)
2-4-3. MEMS (Micro-electro-mechanical System)
2-4-4. 量子ドット (Quantum Dot)
2-4-5. Oxide TFT

3. アプリケーション別トレンド

3-1. 携帯電話

3-2. デジタルイメージングディスプレイ市場

3-3 ポータブルメディアプレイヤー市場

3-4. 車両用ディスプレイ

3-5. アミューズメント用ディスプレイ

4. モバイルディスプレイの未来

【図表目次】

[図1-1] 2010年技術別世界市場規模
[図1-2] 2010年世界のFPDアプリケーション別の実績
[図1-3] 駆動モジュールの比較
[図1-4] 業種別出荷量比率の展望 (2010～2015年)
[図1-5] 業種別売上比率の展望 (2010～2015年)
[図1-6] 2010年モバイルディスプレイ業界現況
[図1-7] 2010年モバイルディスプレイ市場分布
[図2-1] ディスプレイの金額的比重と役割的比重 (～2010年)
[図2-2] フレキシブルディスプレイのロードマップ (～2015年)
[図2-3] AMLCD光効率の展望 (2010～2013年)
[図2-4] IPS生産比率 (2010～2013年)
[図2-5] スマートフォンAMLCD モジュールの厚さ (2010～2013年)
[図2-6] m2当たりのバックプレーン加工費
[図2-7] 構造比較
[図2-8] AMOLEDの発光原理
[図2-9] LTPS決定構造及び補償回路
[図2-10] シャドーマスクのスキーム
[図2-11] LITI Scheme
[図2-12] E-INK概念図
[図2-13] Pixtronix社のDMS概念図
[図2-14] Mirasolの概念図

［図2-15］ 量子ドット粒子
［図3-1］ 携帯電話メイン/ サブ 出荷量 （2008～2011年）
［図3-2］ サイズ別携帯電話出荷量 （2008～2011年）
［図3-3］ 解像度別携帯電話出荷量 （2008～2011年）
［図3-4］ 2010年スマートフォンのバリューチェーン
［図3-5］ DSC Size 別出荷量 （2008～2011年）
［図3-6］ DSC解像度別出荷量 （2008～2011年）
［図3-7］ PMPセットアップメーカー出荷量 （2008～2011年）
［図3-8］ 2010年 PND Display 供給企業
［図3-9］ 純正CNSとPNDの出荷量 （2008～2011年）

［表1-1］ FPD技術Category
［表1-2］ アプリケーション別使用環境
［表1-3］ アプリケーション別技術
［表2-1］ 解像度と画面の大きさによる画素密度 （ppi）
［表2-2］ モバイルフォン企業別代表的解像度
［表2-3］ 特性の比較

【商品概要】

商品名 ： モバイルディスプレイの将来展望
発 刊 ： 2011年8月
発 行 ： 株式会社 ROA Holdings
調 査 ： 株式会社 ROA Holdings
販 売 ： PLANiDEA SurveyReport運営事務局
判 型 ： A4判 89ページ
価 格 ：
報告書［印刷版］
189,000円 （本体価格 180,000円＋消費税 9,000円）
報告書［PDF版］
189,000円 （本体価格 180,000円＋消費税 9,000円）
報告書セット［PDF版+印刷版］
192,150円 （本体価格 183,000円＋消費税 9,150円）

販売ページURL ：
http://planidea.jp/cc/psrl20110908

■ 関連サイトURL

PLANiDEA ［SurveyReport］
http://surveyreport.planidea.jp/

■ 本件に関するお問合せ先

プラニディア合同会社 広報担当
URL ： http://planidea.jp/contact.html

E-Mail : info@planidea.jp

Generated by ぷれりりプレスリリース
https://www.prerele.com